

学校保健委員会だより

令和3年9月15日
吉川市立美南小学校
保健部

第1回学校保健委員会

子どもとところをかよわせる

～子どもとのコミュニケーションについて考えよう～



8月24日（火）に第1回 学校保健委員会を開催しました。

講師は、本校スクールカウンセラーの清水 希巳子先生をお招きしました。臨床心理士・公認心理師の資格をお持ちの清水先生のお話は納得させられるものばかりでした。その一部をご紹介します。

小学生の反抗期

小学生の反抗期①

小学校低学年くらいから始まる
中間反抗期

- ・ なんでも口答えをする
- ・ すぐに怒る
- ・ 無視をする

自分の考えを
持てる

自分の思いを
主張できる

・ 家以外で過ごす時間が増え、「自分の考えが持てる・自分の思いが主張できる」ことが関係しており、**自分らしさの芽生えの合図**で自立につながるものです。

・ 「自立したい」「甘えたい」気持ちが交差した結果、反抗期が生まれるようです。

《反抗期の対応のポイント》

・ まず、親は大らかな気持ちで構える。←簡単そうで、とても難しいと感じました。

①少々の口答えは受け流し、受け入れる。

②一貫した態度で接する。

→親の気分で態度を変えない！！

③耳を傾け話を聞く。（子どもの表情を見極める）

→家事をしながら、携帯を触りながらではダメ。



「〇〇が終わったら話を聞くね。もう少し待っていてね。」などの声掛けをするのも良い。

子どもにイライラしてしまったら、「自分自身のイライラの感情に気づき、親子の関係において何が自分をイライラさせているのかモニタリングしてみる。客観的に自分を見してみる。」ことが大切！

正しく愛情を伝えて、子どものやる気を応援する言葉かけをご紹介します。

① 宿題をなかなか始めないとき



早く宿題をやりなさい!

宿題はいつやるの?

② 悪い成績を取ってしまったとき



またこんな悪い成績を取って! 恥ずかしい。

この成績を見てどう思った?

③ 忘れ物ばかりしているとき



また忘れ物をして! 本当にダね!

忘れ物をしないためにはどうしたらいいかな?

④ よい結果を出せたとき



すごくいい結果が出て、よかったね。

今回がんばることができてえらいね。
〇〇してがんばったからだね。

上記のような声掛けの仕方一つで、子どものやる気をより一層引き出すこともできるそうです。 成功体験と失敗体験を積み重ねて、やり抜く力が身に付きます。「〇〇のがんばったところが見たいな。1番じゃなくてもいいんだよ。」「最後まで頑張ることができてすごいね。」などの声掛けも有効です。子どものころを強くするには、「愛された・認められた実感」が必要。(愛情はどんなに与えても害にはなりません!!) この欲求が満たされていると、**忍耐強くどんなことでもあきらめずにやり抜く**ことができるそうです。

最後に、子どものころに寄り添うポイントとしては「あたたかさ」と「れいせいさ」が大切です。「あたたかさ」とは、お子様に十分な愛情を持って接することで、「れいせいさ」とはお子様自身や親としての自分自身を客観的に見つめ直したり、振り返ったりすることだそうです。

